

防災・減災のページ

毎月11日掲載

巡回ワークショップ @気仙沼・阿部長商店

むすび塾

震災振り返り 経験継承

職場の備え

離れた地域の同業者と災害・復興時支援協定を結ぶ

本社とは別の場所に重要なデータのバックアップを保管する

震災の教訓を証言映像として残し、社員や取引先の研修に活用する

携帯電話の連絡先の控えをつくる

命を守る行動を!

連絡先
阿部 〇〇 090-(xxx)xxxx
伊藤 △△ 080-(xxx)xxxx
植 〇〇

イラスト 東海林伸吾

リーダーの判断 命を守る

気仙沼・本吉広域消防本部元消防長 菊田 清一さん

震災発生後、リーダーの社員が避難誘導したり、車を取りに戻さなかつたり、適切な判断をしたことが、従業員の命を守った。

震災発生時の判断力は、日頃の訓練や心掛けから生まれる。人的被害をなくすこと、建物被害も最小限にとどめることが、被災後の企業の命運を左右する。すみやかに事業を再開するため、水、食料、プロパンガスなどの備蓄も必要だ。

チリ沖の津波で9月18日に東北に津波が到達した。三陸は日本一の津波常襲地域だ。普段から訓練と備えをしておくことが大事だ。



震災発生直後を振り返り、職場や個人の備えを話し合う社員たち



かさ上げされた土地に水産加工工場が建ち始めた気仙沼市の沿岸部=2015年9月



従業員に犠牲者なし

阿部長商店は被災した。00世帯が被災した。本社を置き、宮城、岩手県で水産加工、ホテル、物販店を展開する。震災では9工場のうち8工場が被災した。従業員約800人に犠牲者はなく、震災後も雇用を継続した。

震災後、同市潮見町に市内の工場や冷蔵施設を集約した「気仙沼食品」を整備した。建物は鉄骨一部4階で、津波発生時には3階を避難所として開放する。

雇用継続が生活再建に

私自身、2000年の三宅島の噴火で4年5カ月避難生活をした。勤めていた会社が雇用を継続したことも、大人になったら働きたいと思えるようになった。被災した従業員にとって、今はほとんどの人が携帯電話を持っていて、電話番号を携帯電話に登録しているため、電源が切れてしまっても連絡先が分からなくなる恐れがある。連絡先の控えをメモに書き写すことも一つの備えになる。

宮下 加奈さん

重要データ 集約避ける

木村 拓郎さん

減災・復興支援機構専務理事

危険意識を保って次世代に伝えるには、東日本大震災の経験を記録することが大事だ。会社として10年後や20年後、どう伝承していくか、考えてほしい。文字や写真より手軽にできる映像での記録が、長持ちも保存すれば、防災のシンボルとして活用できる。

万が一に備えて、重要なデータは1カ所に集約しない方がいい。迅速にバックアップを取り、別の場所に保管すべきだ。震災で2次避難所としてホテルを開放したように、地元企業として地域貢献に取り組んでほしい。

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は地域住民らと一緒に、地震・津波に備える巡回ワークショップ「むすび塾」を開いています。名称には、地域と人、人と人のつながりを強め、防災・減災に結び付けていきたいという思いを込めました。

今回の「むすび塾」は31日、大阪市住吉区の東粉浜（ひがしこはま）小で開催します。

職場の防災対策

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社は9月28日、巡回ワークショップ「むすび塾」を気仙沼市の水産・観光業「阿部長商店」で開いた。東北以外の開催を含め通算47回目。同社の気仙沼食品を会場に社員8人が4年半前の震災を振り返り、職場の防災対策を話し合った。

【今後の備え】職場に備えた防災用品を、訓練の時に点検しながら、使いこなせるようにしたいという。水産事業部・武田寛さん(65)

【震災を振り返って】震災後、社員は飲み食いせずともがれきの片付け、泥かきに取り組んだ。団結力を発揮した。水産事業部・阿部隆憲さん(40)

【震災を振り返って】工場の入り口を開放し、3階に逃げた。夜は魚を入れる紙袋と機室の余熱で寒さをしのいだ。水産事業部・日野善基さん(57)

【今後の備え】職場にインドネシアの実習生がいる。イラストを使って避難経路などを分かりやすく説明できるようにしたい。水産事業部・紺野明美さん(44)

【震災の教訓】震災前は地震イヤ、津波という感覚が薄かった。今は防災グッズをバッグに詰めていたらと思うと恐ろしい。観光事業部・小野浩之さん(53)

【震災を振り返って】外出先から会社に戻り、社員を魚市場屋上に避難させた。屋上まで津波が来ていたらと思うと恐ろしい。観光事業部・田村恭子さん(49)

【震災を振り返って】震災発生時は昼食を取るため自宅にいた。車を走らせようと思ったが停電で車のシャッターが開かなかった。観光事業部・寺大輔さん(45)

【参加して】話し合いを通じて、水産事業部の震災体験を知った。水産事業部の教訓も今後の対策に取り入れたい。観光事業部・小野寺大輔さん(45)

むすび塾に参加して

気仙沼・阿部長商店

木村 拓郎さん